

徒然草

ある人、弓射ることを習ふに

①ある人、弓射ることを習ふに、諸矢をたばさみて的に向かふ。  
がを時二本の矢手に挟んで持つ向かつた

② 師の | が | 言うことには | いはく、「初心の人、二つの矢を持つこと | ならない | なけれ。

③のちの矢を頼みて、初めの矢になほざりの心あり

④ 毎度 每回 ひたすら ただ 得失 矢を射る  
矢を射る 当たりか外れるかを 考えること

この一矢に定むべしと思へ。」と言ふ。

形動 ⑤ わづかに 二つの矢、師の前

⑥懈怠の心、自ら知らずといへども、師これを知る。  
なまけおこたるは  
ないいつ  
てもは

⑦この戒め、万事にわたるべし。  
は  
教訓  
全てのこと  
共通すること  
だろう。

⑧ 仏道修行するは  
道を学する人、夕方翌日の朝  
タベには朝  
あらんことを思ひ、  
あるといふが  
考え

翌  
朝には夕べ方あるから、  
あらんことを思ひて、

⑨ 重ねて 丁寧に 修行するような 当てにする  
何度も 次の機会に ねんごろに 修せんことを 期す。  
※副詞も有り

いはんや まして 一瞬間 なまけ の 一  
副詞 ⑩ いはんや まして 一瞬間 なまけ の 一  
一刹那のうちに、  
解怠の心あることを知らんや。  
自覺するだろうか。

(11) なんぞ、ただ今の一念において、ただちにすることのがはなはだかたき。  
どうして  
一瞬間  
非常に  
難しいのか